遠野市のエコシンボルに関する調査研究

岩手大学　学生員○小笠原　崇　岩手大学　正　員　赤谷　隆一
岩手大学　正　員　安藤　昭　岩手大学　正　員　南　正昭
岩手大学　学生員　原田　夏樹　遠野市立博物館　似内　邦雄

１．はじめに

遠野市は、民話という地域資源に着目し、遠野市の暮らしや民話の生活を彷彿させる諸政策に取り組んでいる。しかしながら、観光地の多くが抱える「開発による歴史や文化の破壊、環境悪化」といった問題は、遠野市においても懸念されており、更なる観光地化は商売意欲向上による自然破壊などの弊害が生じる恐れもある。したがってこれらの課題の解決や将来への風土の継承・保全を重点としたまちづくりを考える上で、エコミュージアムの理念を導入することは意義があると考えられる。

自然豊かな遠野市にはエコミュージアムを導入する上で重要となる自然遺産が多々あると考えられる。遠野市におけるエコミュージアム計画策定のため、エコシンボルの基礎研究として遠野市の風土イメージに関する調査と遠野市民の動植物に対する意識調査を実施した。

２．遠野市の概要

岩手県遠野市は、人口28,132人、世帯数8,968世帯（平成13年10月１日現在）、面積660.38km^2（東西33.5km、南北38.2km）、岩手県の東南部に位置し、周囲は1,000m前後の山岳がつらなり、それらの間に700m内外の高原群がつらなる。岩手県内でも寒冷地帯に属し、寒暖の差が激しい盆地特有の気候である。生物の北限と南限の境界線となっている。

３．調査の概要

遠野市の風土イメージを把握するため、言語記述法によるイメージ再生調査をおこなった。言語記述法に関しては、同一被験者に調査を繰り返すDelphi法を用い、意見の収斂をはかった。言語記述法による調査内容は「遠野市をイメージしたとき、心に鮮やかに思い浮かぶもの（自然的なもの・歴史的なもの・祭り・イベントなど何でも結構です）を、思いついた順にできるだけ多くあげて下さい。」である。

動植物に対する意識調査は、文献といわてレッドデータブックを参考にして、動植物の専門家からの聞き取り調査により得られた遠野市に生息し、かつ遠野市おいて重要だと思われる動植物（鳥類；33種、昆虫類；30種、哺乳類；14種、魚類；14種、爬虫類；６種、両生類；９種、植物；35種）について、「知ってる動植物」と「遠野市で見たことがある動植物」とし、認知度調査を実施した。表１に調査実施概要を示す。

表１　調査実施概要

調査名	動植物に関する認知度調査	言語記述調査（２回目）
調査方法	訪問配布、郵送により回収	郵便調査法
調査期間	平成15年９月	平成15年11月
配布票数	1466票	421票
有効票（有効回収率）	384票(26.2%)	273票（64.8%）

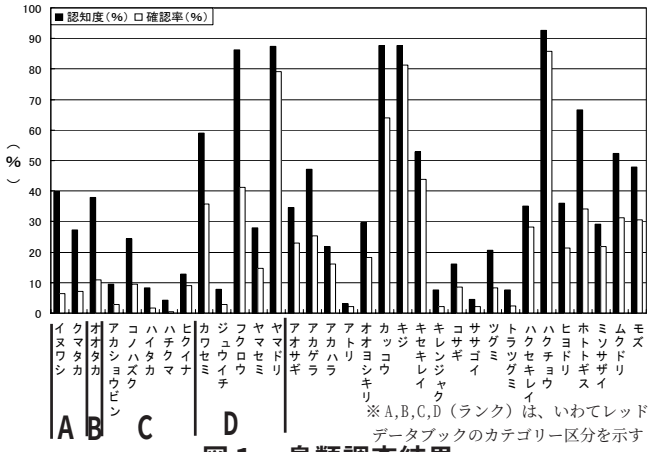

図１　鳥類調査結果

４．調査結果および考察

（１）鳥類について

鳥類についての調査結果を図１に示す。認知度が高いものから順に挙げると、ハクチョウ（92.71%）、カッコウ（87.76%）、キジ（87.76%）、ヤマドリ（87.50%）、フクロウ（86.20%）であった。また、言語記述法においてヤマドリは再生順位67位（再生率；33.70%）、ハクチョウは再生順位63位（再生率；23.08%）であった。ハクチョウ、カッコウ、キジ、フクロウは形態や鳴き声が特徴的な鳥であるからだと考えられる。ヤマドリは昭和46年に遠野市の鳥に指定され、言語記述法で再生順位１位（再生率；78.02%）のしし踊りにおける衣装の装飾に用いられるなど、遠野市においてなじみが深い鳥であるからだと考えられる。以上の結果よりヤマドリとハクチョウは遠野市において重要な鳥だと考えられる。

鳥類の年代別認知度を表２に示す。青年層、成年層、熟年層と年代が高くなるにつれて認知度が高くなる傾向があったが、Ａランクに属するイヌワシ、Ｂランクに属するオオタカなど一部の貴重な鳥類に関しては青年層が熟年層よりも認知度が高いことがわかった。

表２　鳥類の年代別認知度

＜鳥類＞	レッドランク	認知度		
		青年層	成年層	熟年層
イヌワシ	A	54.1%	53.6%	28.9%
オオタカ	B	53.3%	42.3%	34.4%
ヒクイナ	C	1.7%	11.4%	20.9%
ヤマドリ	D	78.7%	90.5%	92.1%
アカハラ		11.7%	24.1%	28.2%
オオヨシキリ		14.8%	37.2%	32.3%
カッコウ		98.4%	87.8%	88.3%
キセキレイ		27.9%	62.1%	58.3%
ハクセキレイ		18.3%	40.8%	41.0%
ミソサザイ		8.3%	21.6%	47.5%
モズ		30.0%	53.9%	56.3%

※危険率５%、有意差有り

キーワード：エコシンボル、意識調査、自然遺産
〒020-8551　岩手県盛岡市上田４丁目3-5　岩手大学大学院　工学研究科　都市工学研究室
Tel：019-621-6453　Fax：019-621-6460

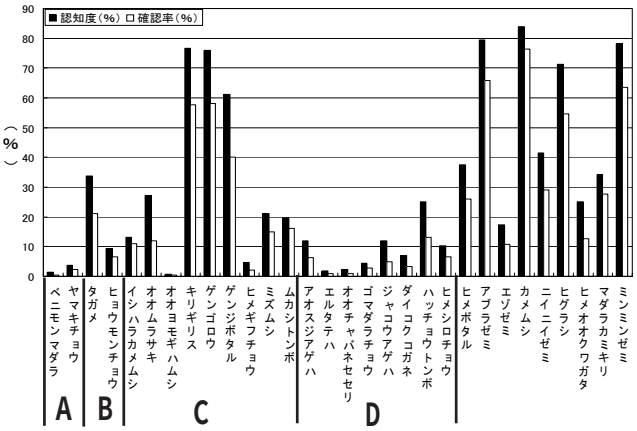

図２　昆虫類の調査結果

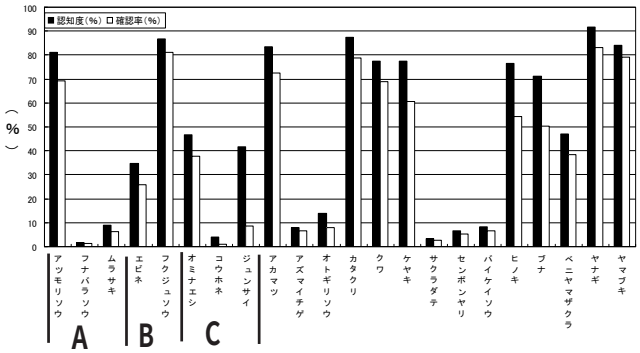

図３　植物の調査結果

（２）昆虫類について

昆虫類の調査結果を図２に示す。認知度が高いものから順に挙げると、カメムシ（83.85%）、アブラゼミ（79.43%）、ミンミンゼミ（78.39%）、キリギリス（76.56%）、ゲンゴロウ（76.04%）であった。これらは人間の生活域に生息している身近な昆虫であるといえる。また、言語記述法において、再生順位57位（再生率；20.88%）トンボという結果であったが、ムカシトンボやハッチョウトンボの認知度、確認率が低い結果となったことから遠野市をイメージした場合、重要なトンボは貴重種ではなく一般的に見られるものであると考えられる。

昆虫類の年代別認知度を表３に示す。昆虫類については青年層と熟年層で有意差があるものは4種のみで年齢による認識度の差はあまり見られないことがわかった。

表３　昆虫類の年代別認知度

＜昆虫類＞	レッドランク	認知度		
		青年層	成年層	熟年層
タガメ	B	58.3%	42.9%	24.0%
ヒメオオクワガタ		39.0%	28.8%	22.1%
ニイニイゼミ		21.3%	48.3%	49.3%
ヒグラシ		57.4%	79.9%	77.2%

※危険率５%、有意差有り

（３）植物について

植物の調査結果を図３に示す。認知度が高いものから順に挙げると、ススキ（92.19%）、ヤナギ（91.67%）、イチイ（88.28%）、カタクリ（87.50%）、フクジュソウ（86.72%）、ヤマブキ（84.11%）、であった。また、言語記述法において、イチイは再生順位46位（再生率；38.10%）、アツモリソウは再生順位65位（再生率；34.07%）、リンドウは再生順位103位（再生率；27.11%）、ススキは再生順位117位（再生率；24.54%）であった。ススキは遠野市の各地で見られ、言語記述法からも遠野市をイメージした際に強く思い浮かぶものであることがわかった。イチイは遠野市の木に指定されていることや、言語記述法において再生順位108位（再生率；26.01%）の早池峰神社に岩手県指定天然記念物である夫婦イチイがあるからだと考えられる。Ａランクのアツモリソウは、認知度が80.99%、確認率が69.27%、Ｂランクのフクジュソウは、認知度が86.72%、確認率が81.25%と共に高い値となった。これは、アツモリソウは遠野市でカッコバナという愛称で呼ばれ、フクジュソウは毒草であるという特徴があり、共に観賞用に人気があり栽培されているからであると考えられる。以上の結果よりアツモリソウ、イチイ、リンドウ、ススキが遠野市において重要なものと考えられる。

植物の年代別認知度を表４に示す。青年層は熟年層と比較して全てで認知度が低くなった。周囲を山々に囲まれた遠野市は面積の約84%が山林を占め、県内でも有数の林業地帯であるため、樹木や野草などに関する知識が豊富で、特に林業が盛んであった昭和40年代以前を知る熟年層では樹木に関する認知度が高いことがわかった。

表４　植物の年代別認知度

＜植物＞	レッドランク	認知度		
		青年層	成年層	熟年層
アツモリソウ	A	63.9%	90.2%	88.1%
エビネ	B	23.3%	42.6%	41.8%
オミナエシ	C	18.0%	58.7%	57.3%
カタクリ		73.8%	93.1%	95.1%
ケヤキ		70.5%	80.3%	86.3%
ヒノキ		72.1%	80.0%	85.5%
イタドリ		29.5%	68.3%	82.0%
ヤマブキ		67.2%	90.5%	90.8%
ミズナラ		37.7%	62.6%	74.5%
ヤナギ		82.0%	95.8%	98.8%
オニグルミ		67.2%	87.3%	90.6%
ヨシ		42.6%	82.1%	84.1%
クワ		50.8%	85.1%	90.0%
キタコブシ		11.5%	31.4%	39.3%
アカマツ		67.2%	87.9%	92.7%
イチイ		80.3%	92.4%	95.1%

※危険率５%、有意差有り

５．まとめ

本研究から得られた主な結果は次の通りである。

（１）鳥類ではヤマドリ、ハクチョウ、植物ではアツモリソウ、イチイ、リンドウ、ススキが遠野市において特に重要な動植物であることがわかった。

（２）鳥類では、（いわてレッドデータブックのカテゴリー区分）A、B、Cランク、昆虫類はA,Bランク、植物はAランクのものが遠野市で見たと答えた人が全般的に少ない結果となり、遠野市においても希少な動植物は簡単に見ることが出来ないことがわかった。

（３）オオタカ、クマタカ等の猛禽類が貴重種でありながら認知度が高いのは、近年の動物保護運動の高まりによるところだと考えられるが、C、Dランクに属する動植物についての認知度は低く、市民の動植物に対する意識の高揚が必要である。

（４）年代別の認知度を比較し、鳥類、植物に関しては年代が高くなると認知度も高くなるが、昆虫類に関しては年代による変化があまり見られないことがわかった。

今後は以上の結果を考慮し、遠野市におけるエコミュージアムの計画策定を行う予定である。

[参考文献]
１）いわてレッドデータブック、2003
２）遠野市植物誌編集委員：遠野市植物誌、1987